

# 新しい風を受けて 新しい自分を模索中

男性の意識改革が叫ばれるなか、自らあざれあに足を運んだ  
男性受講生の一人、佐野修さんに話を聞きました。



## 佐野修さん

(静岡市)

二〇〇二年あざれあ講座「男女共同参画ナビゲーター養成コース」修了後、現在、「男女共同参画ファシリテーター養成コース」を受講中。  
「ナビゲーター修了生有志で結成した「ふいーる21」のメンバー」

### あざれあで脱皮!

「男性も入れますか?」。佐野さんが、あざれあへの電話で発した第一声です。

退職後、「学問道楽をしたかった」という佐野さん。たまたま目にした県民だよりの講座の中で、「男女共同参画」の言葉が新鮮に響きました。しかし、当時の名称は「女性総合センター」。「男性が立ち入って良いのか」と思いながらも、ともかく勇気を出してナビゲーター養成コースの申込みをしたよ

「ジェンダーという言葉も知らなかった」と話す佐野さんには、講義も新しい分野だったため、しばらくはなんとなく違和感があったそうです。しかし、グループワークを重ねるうちに、思いもしなかった意識の変化が訪れます。

「仕事で疲れて帰ってくるのはわかるけど、理解・思いやりがほしい」「家事を当たり前だと思われるのがつらい」「やっぱり子育てって、女性が背負

わされているんだよね」  
そんなこと、理解しなきゃいけないことなんだろうか。

女性たちの思いを直接聞くうちに、「自分の皮膚がボロボロってはがれていく思いがしたんですね。それが、佐野さんの意識改革の始まりでした。「自分が当たり前と思ってきたこと、やってきたことが、ジェンダーだった」と気づくのです。

すると、身近な家庭の中にも変えてみてもよいことが目立ち、実行してみようと、意識の変化はごく自然な形で行動にまで広がってきたと言います。長い結婚生活の間、まったくやろうと思わなかった料理にも挑戦、パートナ1の話にも耳を傾けるようになりました。

### 自分たちの風を 届けよう

「例えば、一つのテーマを話し合うと、十人十色っていうけど、一人十色なんですよ! 講座を受けるたびに自分もメンバーも色が増えてる。最初は、赤・黄色しか持っていなかったタイプの人も七色くらいになってる。自分もそうですよ」

年齢・性別・家庭環境も様々。それまで仕事が主体だった佐野さんは、学

びを通して新しい世界が広がっていくのを実感しています。

さらにナビゲーター養成コース修了後、「このまま終わるのはもったいない。自分も周囲も新しい風を感じてしなやかに生きていこう」と有志で「ふいーる21」を発足。県内各地から集まってくるメンバーと、地域の情報を交換し合い、七月に開催された「あざれあメッセ」では、「あざれあ講座OB会」と共に男女共同参画を題材にした寸劇を披露しました。「たくさんの人と接して、自分たちの体験も深くして、男女共同参画の意識を浸透させていきたいなとメンバーと話合っています」また、活動を広げていくなかで、まだまだ勉強不足とファシリテーター(学習支援者)の講座を受講しています。

当初はとまどいながら通ったあざれあも、今年四月、男女共同参画センターに名称が変わって「やったぞー!」と思った佐野さん。

「女性の支援からスタートしたあざれあだけど、今度は男性支援も目指したらどうか。男ってすごく重荷を背負わされて、『男もつらいよ』って声がある」

今後は「できることから」と、「自分の周りにいる男性たちにも会社・組織以外の人脈作りの大切さを伝えていきたいと思っています」



# 「解決したい、学びたい」という欲求と、あざれあの企画がうまく合致



湯浅 優子 さん

(沼津市)

今春の統一地方選、沼津市議会議員のなかに初挑戦で見事当選を果たした女性がいま  
 した。これまであざれあの講座やイベントに数多く出席してきた湯浅優子さんです。  
 「女性も政策決定の現場に」と言うのは簡単ですが、実現するのはなかなか大変なこと。  
 新しい活動がスタートした今、あざれあにかかわってきた話を聞きました。

## 無駄にはできない

あざれあの講座は、カレッジ(基礎編)とるねっさんす(応用編)、そして政策決定関連と通算四年受講している湯浅さん。「どれもテーマ設定と講師のレベルが高く素晴らしかったですね」。

講座の日は家を朝八時に出なければ間に合わず、もちろん帰りも遅くなります。「その上、交通費もかかるわけです。無駄にはできない、しっかりやろう」という気合いというか、気持ちは強かったですよ。遠方から通う受講生は、特にそういう気概を持つ人が多かったかも」

さらに、「講義には興味が湧くものとそうでないものがありました。本音

を言えばね。でも、半ば強制的にでも触れられたのがよかった。これが独学だったら偏ってしまったと思う」  
 まんべんなく学ぶことに大きな意義があることを、このあざれあで発見した湯浅さんです。

## 実体験が財産かな

地元目を向けると、当時の沼津市には男女共同参画に関する行動計画がないことがわかり、これではいけない!と※アミーぬまづの立ちあげにもかわりました。この団体は、男女共同参画社会を実現するための学習や啓発活動を行っています。「今だに、これを活動の柱としているのは沼津でここだけ。それはちよと誇りですね」  
 ここで作った要望書は、「ぬまづハーモニープラン」という行動計画策定のきっかけにもなりました。

このような活動を続けるなかで、「男女共同参画のベースは政策決定の現場に女性が出てこそ」という思いが強くなってきました。出馬に際し悩んでい

た時期、かつて海外研修で訪れたデンマークの女性議員の「私達の国では、思いを誰かに託すのではなく、暮らしを良くしたい、システムを変えたいという人が立候補するのですよ」という言葉を思い出しました。

「振り返れば、PTAを通して教育環境整備にかかわってきたこと、二番目の子どもがダウン症という障害で生まれ、福祉の限界を身を持って感じてきたこと、夫の母が痴呆になり七年間介護をするなかで、公的サービスが今ほど充実しておらず途方に暮れたこと……。そうだ! 立派なことを言う人に負けない、この実体験があるのではないか」と。

選挙では、たくさんのオキテがあったと言います。「オンナが出る」という理由だけで、さまざまな圧力もかけられ、事実無根の噂にも遭遇したそうです。「いろいろあったけれど、根が明るいのか、前向きでいられました」

「協力はしないけれど、やりたければやれば」と言っていた夫は、フタをあけてみれば看板づくりから何から手伝ってくれたとか。「これは、協力ではない。当たり前のことだ。と言ってましたけどね(笑)」

「不器用でもいい、何事も積み重ねが大切。これからもあざれあに通っていた頃のようにコツコツと真剣に男女共同参画社会の形成のために頑張っていきたい」





斎藤 典子 さん

(静岡市)

# あざれあ図書室には、勉強でできる材料がいっぱい

社会に出た後で再び学ぶ人が増えてきています。講座や大学に通いながらいつもあざれあ図書室の本とともに学んできた、斎藤典子さんに話を聞きました。

## 楽しい大切な場

「この図書室は本の選定が素晴らしい。開館当初は、手当たり次第読みました」と斎藤さん。あざれあ図書室はジェンダー関連に特化し、法律・政治・ルポルタージュ・文献・資料・全国の細かな女性グループの出版物など、幅広い書籍があります。

## ジェンダーとの出会い

「女性で結婚することで取り巻く環境がガラッと変わりますよね」

当時の会社は結婚退職が慣例。働く機会もなく専業主婦をして十年が経っていました。「性別役割分業が一番徹底した世代なの」。そんな八六年に、静岡県女性政策課の女性学講座に参加。「母親世代からの女性規範の押し付け“や”女が家族の犠牲になる考え方”への反発心の自覚と、ジェンダーの勉強を始めた時期がちょうど同じでした。

八八年には「ねっとわあく」編集員も経験。「学んだことと当時の現実社

会とのギャップも感じましたね」

## 学び始めるきっかけ

アジアの女性問題に興味を持ったのは、松井やよりさんの講演からでした。九〇年に県海外研修派遣団でアメリカへ行き、「日本の政策はもっとアジアに目を向けるべきだと思いました」。普通の人が、いろんな国の人との出会いを生活のスパイスにしている様子に触れ、帰国後は「我が家でも」と、ホームステイを引き受け始めました。多くの出会いの中で、九四年にベトナム支援活動に参加し、「志が同じ人と一緒に学んだり、社会を変えたい」と思うようになりました」

でも、その時「もっとアジアのことを学んでから活動したほうがいいのでは」というアドバイスを受けたのです。同情論や変な正義感での行動が正しいのか、支援活動は彼らたちの元まで届いているのか。「学ばないことは無責任？」と考えました。

## 大学にもフル活用

九五年から、県立大学の科目履修生になりアジア学を学びました。その時、あざれあ図書室の本がレポートなどに大活躍。「特にルポ・歴史・地史・アジア学などの本を読みました」

九八年には静岡大学三年に学部編

入。今度は文化人類学でジェンダーの視点からアジアの女性の生活を学びました。一方で「働きながら学ぶ」をモットーにフルタイムのパートを続け、働く女性の大変さを実感していました。その体験から、修士論文「伊豆白浜における海女女性労働の分析」では、日本の性差別労働の問題をとりあげました。

「女性労働の軽視、これは現代のパート労働にも通じていますね。女性に経済力があっても、社会の仕組みで女性の地位はやっぱり低いのです」

この論文でもジェンダーに関するものは、ほとんどがあざれあ図書室の蔵書。「ジェンダーなら絶対あざれあがおすすめ。大学より充実していますね」

しかし、「勉強だけでなく生き方に迷うとき、本を読むことで軌道修正できる、そんな”本の力”もここにあるのよ」

## これからも……

学ぶことは「生きるためのエネルギー」と語る斎藤さん。今年から名古屋大学の博士課程に進学しました。「日本の場合、勉強したことの受け皿が少ないのが課題。それがあれば勉強し直す人が増えるでしょうね」

「夢？ いろんな地域の生活をジェンダーの視点から見た本を残す、なんていいですね」

## あざれあ講座・開催事業の変遷

	人材育成連続講座	ステップアップ講座	フォーラム等		
平成5年	★しずおか女性カレッジ (2年制・1期)		★男と女の21世紀セミナー ★健康な家庭づくり 県民フォーラム		
6年			女性のニューリーダー 養成事業 ★マネジメント講座 ★ハウツー講座	★男と女の21世紀セミナー ★国際家庭フォーラム	
7年	★しずおか女性カレッジ (2年制・2期)		★男と女の21世紀セミナー ★家庭を考える 県民フォーラム		
8年			女性の地域実践活動 推進員設置事業 ★地域研究塾 あざれあん・るねっさんす	静岡21世紀 男女共同参画推進事業 ★しずおか21世紀 男女共同参画フォーラム	
9年	★しずおか女性カレッジ (1年制・3期)	女性のニューリーダー 養成事業 ★エンパワーメント講座	男女共同参画プラン 推進事業 ★男女が共に創る しずおかフォーラム		
10年	あざれあ講座開催事業 ★あざれあカレッジ 基礎コース 「えぼっく」		ふじのくに パートナーシップ実践事業 ★ふじのくにパートナ シップ実践フォーラム		
11年			★あざれあカレッジ 実践コース 「るねっさんす」 ★あざれあセミナー 「えぼっく」 ★サタデーサロン	★あざれあんナイトカレッジ	第1回 ふじのくに・男女共同参画 の日記念のつどい
12年			★あざれあゼミナール	第2回 ふじのくに・男女共同参画 の日県民のつどい 女性に対する暴力防止事業	
13年	★あざれあゼミナール		第3回 しずおか男女共同 参画の日県民のつどい 女性に対する暴力防止事業 フラッシュポイントカレッジ		
14年	★あざれあゼミナール ●男女共同参画ナビゲーター 養成コース ●男女共同参画 ファシリテーター養成コース ●ニューエンパワーメントコース	★あざれあんナイトカレッジ ★政策決定参画カレッジ ★地域カレッジ ★あざれあビデオカレッジ	第4回 しずおか男女共同 参画の日県民フェスティバル 女性に対する暴力防止事業 フラッシュポイントカレッジ		
15年	★あざれあゼミナール ●男女共同参画ナビゲーター 養成コース ●男女共同参画ファシリテーター 養成コース		第5回 あざれあメッセ2003 男女共同参画の日県民フェ スティバル 女性に対する暴力防止事業 参画推進協働カレッジ		

# 新たななる道、漁業への転身で前向きな挑戦



杉山 恵子 さん

(浜松市)



「やりたいことがあるのに仕事があつて…」という人がいます。しかし、杉山恵子さんは仕事をしながらあざれあ情報誌「ねっとわあく」編集員、地元浜松市の男女共同参画推進活動など「やりたい！」と思ったことにチャレンジしてきました。そして今、男社会といわれる漁業へ転身。新たななる挑戦をはじめた杉山恵子さんに話を聞きました。

## 仕事ですべてではないと痛感

ある時、近所の公民館でシティカレッジ講座生募集が目にとまりました。窓口で「働きながらの受講は、大変で無理だよ」と言われたのに発奮。「よし！」と、仕事と講座を両立させるために、何とか時間をやり繰りして通い続けました。二年後に卒業。さらに自分を磨くために、平成九年に「ねっとわあく」編集員になりました。「ねっとわあく」を経験して、自分の中で大きな力となったことは、NPO特集へ33号で阪神大震災の取材に行った時のこと。瓦礫の中で生きる人を支えるために働く女性スタッフの姿に、圧倒され続けました。

「着の身着のまま飛び出して助かった人たちの生活を支援するために、活動に励むスタッフの細かい配慮と、情報収集を素早く行う手際よさに感動したんですよ」

平穏無事な場所では想像もつかない事故や事件が待ち構えている驚きとショック。そこで自分のことよりも人を助けるための活動を、優先的に行う女性スタッフの姿。支援するということの幅の広さを教えられました。

「喉もとすぎれば熱さ忘れるということわざがありますが、あの時見てきた現場の緊迫感を、今後の活動の中で自分にカツを入れる意味で忘れないようにしたいです」

## ミュージカルに挑戦

平成一二年、「ねっとわあく」での体験を生かし、浜松市で行われた日本女性会議の交流会部会での部会長を務めました。千六百人余りの参加者。スムーズに運営するために、緊張の連続でした。男女共同参画をテーマに上演したミュージカル「奏でよう！じぶんらしく」は、社会の男女差別や家に縛られずに自立していく女性の姿を描いて、大成功。大きな自信となりました。

「様々な活動役割のなかで、責任ある立場に立つと言うことに、多くの女性はまだ消極的だと思う。私は、やってみなければできないかできないかは分からないから、とりあえずやってみる。できないならその理由は何？ じゃあ、できないことを克服できればやるんじゃない？ という考え方で取り



組んできました。”杉山が今何かやっているぞ！”と、自分の存在を社会の中に確立していきたいですね」

昨年、義父の痴呆が進行したため、九年間勤めたホテルを退職しました。

「もちろん、両立を第一に考えましたが、家族のことを一生懸命に考えていたら、一時介護に専念するの男女共同参画や女性の自立の選択肢の一つなのだと思います」と語る杉山さん。「何でもこい！」と、前向きに挑戦しています。

## 男社会に飛びこむ

現在杉山さんは、浜松市入野漁業組合の監事の仕事をしています。

男社会である漁業への転身は、前の職場でも男性と肩を並べて、会議や仕事の分野をやっていた実績があるから、とまどいはありませんでした。「むしろ新しいことにチャレンジすることへの喜びの方が大きかった」と言い切ります。

実際、舟に乗っての漁は力もいるし、長年の勘と技を極めていく職人仕事。

「私が漁で一人前に働けるようになるまでには時間が必要ですが、今臨んでいけることは、漁協の中で私にしかできないポジションを作り上げていくことだ、と思っています」

「学んできた男女共同参画を漁協の

中で声高に言ったら、周りの目が点になる状況があります。いつか自然に『今は男も女も区別することはないんだな』と思えるようになれたらいい」

## 今後の活動は 佐鳴湖の浄化

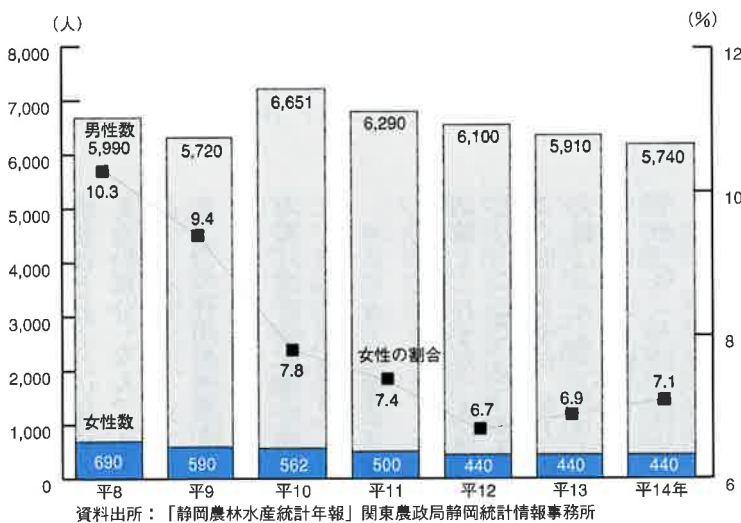
佐鳴湖は、平成一三年度水質ランキング(環境省発表)で不名誉なワーストワンに。

「これは、化学的酸素要求量(COD)が少ないという理由でつけられた値です。漁種は、うなぎをはじめ一七種類と豊富な湖。それがとても悔しいから、今後佐鳴湖をきれいにするための活動に力を入れていきたい」と佐鳴湖浄化への意欲は満々。

ホームページを作って、佐鳴湖に隣接している住民と行政が一緒になって活動している民間団体の「佐鳴湖をきれいにする会」と、他の環境団体の交流を深めたネットワーク作りを、活発にしていきたいとも考えています。

さらに、あざれあでファシリテーター(学習支援者)の講座も受講中。「多くの参加者と意見交換でぶつかり合いながら、幅の広い、厚みのある、角のない、しなやかな男女共同参画を伝えるファシリテーターを、目指していきたいと思っています」

男女別漁業就業者数の推移 (静岡県)



資料出所: 「静岡農林水産統計年報」 関東農政局静岡統計情報事務所

